

## 平成28年度第1回 海岸工学委員会 議事録（案）

開催日時：平成28年6月15日（水）14:00～17:10

開催場所：土木学会（東京，四ツ谷），講堂

出席者：柴山相談役，青木委員長，岡安副委員長，佐々木幹事長，森，渡部，川崎，重松，高橋，柿沼の各小委員長，北野主査，原田，荒木の各副小委員長，有川，伊藤，太田，杉松（大村代理），岡田，小野，小竹，斎藤，作野，山形（真田代理），比嘉（鈴木代理），松田（津田代理），鳥居，中嶋，福山，松本，水谷，宮武，横木の各委員，小笠原，西畑（片山代理），桐，中川（栗山代理），後藤，諏訪，高木，武若，田島，松山，山城の各委員兼幹事

資料：

- ・2016年度第1回海岸工学委員会幹事会次第（資料1）
- ・パワーポイント資料（資料2）

### ■委員の交代

池谷委員（元鹿島建設）→ 福山委員（鹿島建設）

土木学会論文集B編集小委員：陸田前委員→山城委員兼幹事

### ■前回議事録の確認

- ・WEBに公開済み

### ■議事前報告（佐々木幹事長）

#### 1. 土木学会全国大会研究討論会について

9月9日（金）13:00～15:00，水谷委員，小竹委員から地盤～波連携の企画を提案している。

#### 2. H28年度土木学会重点研究課題助成

減災アセスメント小委員会（海岸工学委員会側の共同小委員長：岡安副委員長）からの提案課題が平成27年度に引き続き採択された。

#### 3. H27年度委員会活動度評価結果

評価はAであった。2015年度海岸工学講演会（東京）の参加者が多かったことが貢献した。配分額は全体が下がったため98万円と前年度より下がった。

### ■審議事項

#### 1. 海岸工学論文集第63巻応募論文審査について（森小委員長，原田副小委員長，佐々木幹事長）

##### (1) 応募状況

- ・投稿論文数：373編（和文：355，英文：18，昨年度より若干減）

内訳：通常論文：367（和文：349，英文：18），企画A（論文あり）：4（和文），企画B

(論文なし) : 2 (和文)

- ・土論B2 (海岸工学) 通常号からの発表希望が3編, CEJからの発表希望が1編の計4編の講演希望があった.

(2) 第1段審査の結果について

- ・110名で査読 (17件@1名) を行った.

- ・査読者の査読平均点は例年とほぼ同様であるが, 査読平均点の目安を大きく逸脱している査読者や, 1, 2点を付けた際に理由を記入していない査読者が (例年通り) 散見されるので, 告知文をわかりやすく修正する等, 注意喚起することとした.

- ・企画セッションB (論文なし) の2編は採択に十分な得点であり, 採択とした.

- ・通常論文および企画A (論文あり) の371編は同一の扱いとし, 18点以上が240編, 17点が65編あり, 17点以上の305編が第2段審査へ進むこととした.

- ・その後辞退が7編あり, 通常号からの発表希望3編とCEJからの発表希望1編, 発表のみの2編を足した304編がこの時点での発表予定数.

- ・辞退理由と対応について. 査読前に「発注者への確認不足があり, その後修正を求められ対応不能となった」ものがあったが, 査読前であったので査読には影響していない. 第2段審査原稿受付後に辞退したものが7件あった. 内訳は「11月には日本を離れ海外に引っ越すため」1件, 「病気入院のため」1件, 「講演会の期間に発表者の都合がつかないため」1件, 「本原稿の提出が間に合わないため」2件であった. 「メール・電話等での問い合わせに対する応答なし」が2件あり, 今後警告文等を出して, それでも返答がない場合は厳しい対応をとるといったことも今後議論する必要がある.

- ・熊本地震のため本原稿作成が間に合わないとの連絡があり, 委員長, 副委員長, 幹事長および関係者と協議し, 10日間の期限延長を認めて本原稿を受理する措置をとった.

- ・採択率82.3% (過去最高ではないが, 高め) で, 分野別の採択数に差はなかった.

(3) 論文投稿システムについて

- ・著者情報は論文名などと同じく, 投稿者がシステム上で変更できるようにはなっていないが, 著者の所属情報については, 投稿者が変更可能となるようにシステムを変更することを了承した. 査読者割り振りの問題もあるので, 著者の所属変更があった場合は編集小委員会 (cec) へ連絡するよう依頼することとする.

- ・出版業者との協議を踏まえ, 査読判定結果のA, B, C判定全ての最終原稿が揃ったところで業者に送ることとした.

- ・最終原稿のPDFファイルをアップロードするためのシステムを, 査読システムとは別に立ち上げた.

- ・最終原稿はPDFをアップロードするのみとし, csvファイル, CDや紙媒体の送付を本年度は不要とした.

(4) 海岸工学講演会における発表割当可能数の見直しについて

- ・企画セッションの時間帯に第4, 第5会場をなしとすると, 通常のセッション割だと294編しか

発表枠がない。朝の開始を20分前倒しすると309編の講演が可能となるため、必要に応じ8:40開始として不足分を確保することを承認した。

- ・ 従来の採択数の目安300編について議論があった。講演会のキャパシティに依存しており、活動度評価や採算面を考慮した数字でもある。採択率が高くなりすぎないように、応募数をなるべく増やす方向で対応したいとしているのが現状。

- ・ 2段査読について。第1段と第2段査読の採択率を変更する、あるいは2段審査をやめて全文査読のみにする等の検討が必要であれば、今後長い期間をかけて議論する必要がある。まずは、2010年のWGの報告書(Webで公表中)で150人ほどにアンケートを実施しているので、その時の議論を参考にして欲しい。

#### (5) 著者負担金について

- ・ 著者負担金は36,000円（DVDのみ3,000円、ともに昨年度と同じ）を見込んでいる。
- ・ 著者負担金の未払いが毎年4件程度（約15万円）あり、委員会として事務局による督促を支援することとした。未払いは、請求先が投稿時に学生で請求時に卒業しているケースが多い。
- ・ 今後の未払い対策として、現在の請求先は論文投稿システムへの登録者となっているが、請求書送付先欄を新設する等、投稿システムの改良を含め検討することとした。

#### (6) 編集小委員会からのお願い等

- ・ 2段査読で主査がD判定をつける場合、編集小委員会（cec）アドレスにも連絡頂きたい。
- ・ フォーマットのチェックもお願いしている。フォーマットが問題がある場合でも、著者の負担で業者による組版を行うという選択肢もある。

## 2. 海岸工学論文集の将来検討について（北野主査）

- ・ フォーマットのチェックが大変重要になっている。特に引用文献の記載方法に混乱がみられる。
- ・ 論文原稿の提出物は、今年度からは最終原稿のPDFのみとなる。
- ・ フォーマットが著しく逸脱するものは業者組版で対応可能。費用は15,000円ほど。
- ・ 組版の廃止により生じた余裕スケジュール（2週間）は、第2段原稿の論文執筆期間および第2段原稿の査読期間をそれぞれ1週間長く配分した。
- ・ 企業広告は、昨年度は要望に応じられなかったものがあったので、本年度は広告枠を増やすよう工夫した。
- ・ 講演会前にはJ-Stageに論文アップロードを完了する予定。またDVDは投稿者に配布予定。
- ・ 当日販売版はUSBも作る予定であり、五洋建設（株）に協力依頼していることが報告された。

## 3. 海岸工学講演会企画セッションについて

### (1) 第63回海岸工学講演会企画セッション（重松小委員長）

テーマ：東日本大震災と環境

オーガナイザー：重松，日向

応募状況：A 企画セッションA（本論文あり）4編（最大見込み）

B 企画セッションB（アブストラクト審査のみ）2編

C 一般の応募論文から（本論文あり）

招待講演者：4つの話題を挙げ、検討中。2名は快諾頂いており、2名はこれから。

- ・2セッションでなんとか収めたい。150分程度で収まるよう調整したい。
- ・招待講演者の旅費支給について。招待講演者1, 2については旅費を支援する方向で了承した。

(2) 第64回海岸工学講演会企画セッションについて（佐々木幹事長）

- ・流砂系の土砂管理について、という案で検討を進めていく。

#### 4. 第63回海岸工学講演会（大阪）の準備状況（荒木副小委員長）

実行委員会：間瀬〔実行委員長〕（京大），荒木〔幹事〕（阪大），後藤・森・原田・五十里（京大），重松・遠藤（大阪市立大），高橋・安田（関西大），内山（神戸大），柿木（神戸高専），川崎（（株）ハイドロソフト），青木（阪大）

後援：近畿地方整備局，大阪府，大阪市内に依頼予定

期間：2016年11月16日（水）～18日（金）

講演会：大阪大学中之島センター（北区中之島）

懇親会：11月17日（木） 18:30～20:30（または19:00～21:00）

会場：中之島ソーシャルイートアウェイク（大阪市中央公会堂内，建物内及び周辺は禁煙）

会費：7,000円（予定）

見学会：Aコース：大阪港・神戸港。11月15日（火）13時に神戸地方合同庁舎に集合。

Bコース：津波・高潮ステーションおよび安治川水門を予定していたが，木津川水門へ変更

#### 5. 第63回海岸工学講演会前日シンポジウムについて

- ・津波小委員会で実施を予定している

#### 6. 第64・65回海岸工学講演会について

(1) 第64回海岸工学講演会（札幌）の準備状況（渡部小委員長）

実行委員会：山下〔実行委員長〕（北大），渡部・猿渡（北大），宮武（函館高専），中島・木岡・大塚（寒地土研）

後援（予定）：北海道開発局，寒地港湾研究技術センター，北海道，札幌市

日程：2017年10月25日（水）～27日（金）

会場：TKP札幌駅カンファレンスセンター（JR札幌駅北口徒歩2分，旧代ゼミ）

見学会（案）：10月24日午後，前日シンポジウムの前

Aコース：石狩湾新港（LNG発電所建設工事等：開発局）

Bコース：北大紅葉散策（終日フリーで）

予算：札幌市会議助成(1000名)あり

(2) 第65回(2018年度)の海岸工学講演会の開催地について（佐々木幹事長）

- ・ 過去の開催履歴および地区の事情を基に検討した結果、2018年度は九州地区とし、鹿児島県開催で検討を始めていることを了承した。
- ・ 2019年は中国・四国地区とし、鳥取県開催を候補として検討を始めることを了承した。

## 7. 第52・53回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について

(1) 第52回（2016年度）水工学に関する夏期研修会の準備状況（小笠原委員兼幹事）

期間：8月22日（月）～23日（火）

会場：秋田大学手形キャンパス

テーマ：地球環境変化時代の水防災(河川・水文コース)

東日本大震災後の津波防災(海岸・港湾コース)

海岸・港湾コースの講師8名の人選と講義題目の提案があり、承認された。

(2) 第53回（2017年度）（幹事：海岸工学委員会）の開催地について（佐々木幹事長）

- ・ 過去の開催状況を確認し、関西地区で開催する方向で地区幹事に検討をお願いすることが承認された。

## 8. Coastal Engineering Journalについて（渡部小委員長）

- ・ 委員の交代：金沢大由比先生→東北大有働先生
- ・ Impact Factor 2.5 から 0.70 へ（2011津波特集号の貢献期間終了）
- ・ 特集号の編集状況
  - フィリピン台風ハイヤン特集号（田島editor）9編で出版
  - 震災5周年特集号（高橋editor）18編/38編の全文を審査中
  - Climate Change特集号（森editor）13編/14編のアブストラクト審査中
  - 2018年は粒子法（後藤editor）をテーマに準備中
- ・ CEJ Award：選考手順および以下の論文を授賞論文として承認した。
  - Spatial Modeling of Tangible and Intangible Losses in Integrated Coastal Flood Risk Analysis, A. Burzel, D. R. Dassanayake and H. Oumeraci, CEJ, Vol. 57, No.1 (2015) 1540008.
- ・ JAMSTEC中西賞：選考手順および以下の論文を授賞論文として承認した。
  - Analysis of Climate Change Effects on Seawall Reliability, H. Mase, T. Tamada, T. Yasuda, H. Karunarathna and D. E. Reeve, CEJ, Vol. 57, No. 3 (2015) 1550010.
- ・ CEJ Citation Award：過去の重複受賞を許さないことを前提として選考し、以下の論文が授賞論文として承認された。
  - Propagation and Inundation Characteristics of the 2011 Tohoku Tsunami on the Central Sanriku Coast, T. Shimozono, S. Sato, A. Okayasu, Y. Tajima, H. M. Fritz, H. Liu and T. Takagawa, CEJ,

Vol. 54, No. 1 (2012) 1250004.

- CEJ掲載論文の海岸工学講演会での発表枠について  
発表希望者が例年少なく、手間の割に効果が小さいことに加え、国際共同研究が進んでおり対象論文の選定が困難等の理由から発表枠撤廃の提案があり、承認された。
- CEJの購読機関は25機関となっている。保証金や契約の関係からも購読機関数を増やしたいところであるが、セキュリティの関係で電子版の購読契約ができない機関や購読しているにもかかわらずリストに計上されていない機関がある。委員所属の各機関で購読されているか、されていない場合は購読の可能性について検討するよう依頼があった。

## 9. 研究小委員会等の活動報告

### (1) 広報（川崎小委員長）

- 活動状況について、Web情報の充実、アウトリーチの充実について報告があった。
- 過年度課題として討議集の扱いをどうするか引き続き検討を行う。

### (2) 沿岸域（重松小委員長）

- 11月、1月に研究会実施。4月23日に勉強会を実施。夏、初秋ごろにも勉強会を実施予定。

### (3) 津波（高橋小委員長）

- 第4回委員会を7月に開催予定。各ワーキンググループの進捗確認と、第63回(2016年度)海岸工学講演会の前日シンポジウムの議論の確認を行う。
- 前日シンポジウムにおいて、最終アウトプットや設計、試作品を提示し、意見を聴取する予定。

### (4) 波動モデル（柿沼小委員長）

- 九州大学応用力学研究所で採択された会議を12月に開催。印刷物の作成を準備中。次回の開催を検討中。

### (5) 減災アセスメント（岡安小委員長）

- 土木学会の重点研究課題に申請し、2年連続で採択。京大防災研の共同研究課題に提案し、採択された。
- 小委員会の活動として現地視察と意見交換会を3月、6月と実施した。

## 10. 小委員会の新設について

以下の2件の提案があった。

- (1) 「地域研究活性化小委員会（仮）または 地域問題研究小委員会（仮）」（青木委員長）：  
地域の海岸における種々の問題の解決と新たな価値の創造に寄与するため、地域でのネットワークづくりと共同研究を奨励・支援し、研究成果の情報交換の場を提供することで新たな課題の発掘につなげる。

青木小委員長を予定。副小委員長は検討中。

→ 小委員会として活動を始めることを承認した。

- (1) 「水理模型実験における地盤材料の取り扱い方法に関する研究小委員会（仮）」（水谷委

員) :

分野横断型研究が進んでいることから、水～地盤の相似則の取り扱いについて、知見・実験等を整理する。

水谷小委員長，小竹副小委員長を予定。若干名委員の公募予定。

→ 小委員会として活動を始めることを承認した。

## 11. その他

- ・「原子力発電所の津波評価技術」の改訂に伴う意見公募結果について（松山委員兼幹事）  
土木学会Webサイトで公募したところ，7名19件の意見が寄せられた。頂いたご意見と今後の対応方針についてWeb上で公表済み。東京と大阪で講演会を開催予定。
- ・委員会活動度評価に関するアンケートについて（佐々木幹事長）  
今はアウトプットで評価しているが，色々な評価軸があってもよく，まずは現状を把握して様々なご意見を頂きたいという趣旨のようなので，ご意見等あれば佐々木幹事長までお寄せ願いたい。

記録（杉松）